

# 東白川村 美しい村づくり 委員会

## 第29回

○場 所：ふれあいサロン

○時 期：平成30年9月25日 19:00~21:00

○参加者：委員9名 一般参加3名 行政2名

### 第1 高野教授との学びの場

「持続可能な東白川村をデザインしよう！」

～第4回地域のシェアハウス(2)～

平成30年度に委員会では高野教授による勉強会を4回予定しています。今回はその第4回が行われました。前回のシェアハウス(1)では「移住支援としてのシェアハウスのススメ」のレクチャーを受け、地域におけるシェアハウスの効果を学びました。今回は、空き家をシェアハウスとして活用することについて話し合いました。

#### 1 高野教授のプロフィール

名古屋大学で地球学を研究後、環境学へと移籍。現在、名古屋大学大学院環境学研究科・持続的共発展教育研究センターで教授を務める。様々な専門家と協働し、主として地下資源が枯渇した千年後も成り立つ地球と社会のシステムを作り出すための『千年持続学』を研究。地域住民、行政とともに中山間地の地域再生に取り組んでいる。

◆「ミライの職業訓練校」校長

◆近編著：「持続可能な生き方をデザインしよう」（2017 明石書店）

～世界・宇宙・未来を通していまを生きる意味を考える ESD 実践学～

#### 2 「空き家とシェアハウス」について

事務局から、空き家を改修してシェアハウスとして利用する際の、関係法令への対応、運営方法、事例等について紹介しました。

(1) 建築基準法

- ア 特定住宅「寄宿舍」への用途変更が必要。
- イ 既存不適格の適用はなくなり、現行基準を満たす必要がある。  
耐震、日陰、接道部分、階段、廊下、間仕切り壁の準耐火等。
- ウ 空き家の延床 200 平方メートル以上について。

(2) 消防法

居室の床面積や家主等の居住の有無に応じて、消防法令上の用途が判定され必要となる消防用設備が異なる。

(3) ゲストハウスとシェアハウスについて。

(4) ルームシェアとシェアハウスについて。

(5) 空き家改修し移住施策としてのシェアハウスの事例の紹介。

3 話し合いでの意見

(1) シェアハウスは移住定住へのファーストステップであり、門戸が広がり、交流も深まる場である。結果、移住者が増加する効果がある。

(2) シェアハウスとルームシェアの違いは？

シェアハウスは貸し手が借り手の各々と契約を交わす。

ルームシェアは貸し手と借り手（一人）が契約を交わし、その他の住み手と借り手とが賃料と住居をシェアする。また、目安としてシェアハウスは運営業者が介在しルームシェアは介在しないなどがある。

(3) 空き家の改修費用は極力抑えたい。

(4) ルームシェアの住人の募集の方法は？

ネットの掲示板のようなサイトでやり取りされている。

(5) 地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊のミッションとしてシェアハウスはどうだろうか。

(6) シェアハウスとシェアオフィスの併用は効果があると思う。

(7) シェアハウスのコンセプトやトータルデザインが重要。

(8) シェアハウスのプレイヤーは誰？

(9) プレイヤーは、始めは美しい村づくり委員会が担い、活動していく中で、緩やかに移行していけば良い。

- (10) 自治会が運営した古民家改修ワークショップがある。改修後、移住者が住む。  
その延長に、ルームシェアが行われるのは、どうだろうか。
- (11) 企業との連携。企業版ふるさと納税。
- (12) 生活するための空き家の改修費は誰が捻出するのか。
- (13) 空き家改修ワークショップは、交流の場となり、移住定住や地域づくりにとても効果的だ。
- (14) 資金収集としてクラウドファンディングの方法がある。
- (15) 多様な巻き込み方が必要。仕掛け方や、ワークショップのキャッチコピーなどが重要になってくる。

#### 4 まとめ

今までの話し合いの内容をまとめよう！となり、ルームシェアを視野に入れ、改修ワークショップも取り入れたプラン作りを行います。

次回もひきつづき、高野教授のもと「地域のシェアハウス～具体的なプランづくり～」を行います。

### 第2 次回について

#### 1 委員会 10月30日(火) 19時～

(会場) ふれあいサロン

(内容) 持続可能な東白川村をデザインしよう

～高野教授との学びの場～延長戦～

「第5回 地域のシェアハウス(3)～プラン作成～」

以上

※次頁写真掲載

## 委員会の様子

